

秋田公立美術工芸短期大学 4 年制大学化検討有識者委員会
第 1 回会議 議事概要

- 1 日 時 平成22年11月18日(木) 13:30 ~ 15:20
- 2 会 場 会議兼応接室
- 3 出席者 委員：銭谷委員、河野委員、吉村委員、小林委員、渡邊委員、立田委員、
石山委員（欠席は、宮田委員、久世委員、長澤委員）
市側：石井副市長、中川副市長、樋田秋田公立美術工芸短期大学学長、
小国企画調整部長、工藤秋田公立美術工芸短期大学事務局長、
土田企画調整部次長、須藤秋田公立美術工芸短期大学事務局次長、
工藤企画調整課長、古木秋田公立美術工芸短期大学事務局総務課長、
北川秋田公立美術工芸短期大学事務局学生課長ほか 5 名

4 主な意見等

(1) 委員長、副委員長の選出

- （委員の互選により、銭谷委員を委員長に選出）
（銭谷委員長の指名により、渡邊委員を副委員長に選出）

(2) 市内における検討状況の報告

実技と理念の一致を目標に専門領域と幅広い教養教育までを視野に入れれば、学部 4 年でもまだ不足の感は否めない。もとより大学とは幅広い教養の上に専門教育があるものと思う。

(3) 秋田市が目指す芸術・文化のまちづくりについて

他のどの地域にも無い秋田独自の歴史的伝統文化や伝統的な表現を再発掘して、その上に新たな独創性豊かな伝統を築く。広報力を駆使して国の内外に新たなイズムを発信する。アート系の大学が行政の文化政策の一翼を担い、地域住民と教職員と学生が一体となって街づくりに参画する。街の景観、都市計画に関すること、種々のデザインや子供から大人まで巻き込んだアート、デザインのムーブメントを起こすことなど、教育・研究に資する内容を精選して、社会貢献の実績を重ねて美術系大学の存在意義を明らかにしていく考え方に賛同する。

「美術のまち秋田」といったように打ち出した方がインパクトがあってよいかもしれない。

秋田に根付いている生活や風土にどうやって美術をいかしていくのかということや、4年制大学を出た人材を地域にいかす仕組みを行政・企業ともに考えていかないと、どれだけ立派な大学を作っても意味がないので、4年制大学に期待する役割はもっと丁寧に考えていってほしい。

(4) 新大学に関する構想について

【4年制大学化関係】

近年、短大の4年制化は大きな流れ。資源の少ない日本が無から有を生み出すために、美術・工芸が持つ力はすばらしく、無から有を生み出す確率を高めるには2年間の教育では短い。

4年制大学化による教育内容の充実や同専攻の他大学との競争力を考えれば、短期大学を4年制大学化されようとする意図は、十分に理解できる。ただし、新たに4年制大学となった後の美術工芸大学としての永続性についての慎重な検討が重要だと考える。公立大学法人というあり方を力に、どのような規模と特長とオリジナリティーを具体的に実現するかが、検討段階での大きな課題であろうと考えている。

建学の理念、教育理念についてはおおむね賛意を示す。地場の歴史や産業の蓄積と大学が築き上げた実績を踏まえて、他には類を見ないオリジナルな大学の特徴をどのように作りあげるのか、今後の議論の中心になると想像する。

4年制大学化は、人材養成、特に秋田という地域の人材にとって強い基盤を作ることができるので賛成する。ただ、4年制化する以上は、ローカリズムに偏らず、グローバルな視点で他にはない優れた人材を育てるための大学をつくるのが最初にあって、その中で地域、日本、世界に対してどういう貢献ができるのかの議論を目指すべきだと思う。

キャンパスについては、個人的には駅前がよいと思っている。

美術系大学への進学希望者は県内で50～80名程度、もしくはそれにプラス10名程度である。中には経済的に短大だからこそ進学できる生徒もいるものの、県内に美術系4年制大学ができることは、生徒たちにとって大きな魅力だと思う。

また、中央地区には美術を専門に学べる高校がない。4年制大学とリンクすれば、美術に優れた人材を育成できるようになるという期待もあるし、専門コースをつくって美術系大学への進学の道を広げられる可能性も出てくる。

短大の2年間ではどうしても修業期間が短い。スケジュールをつくり、期限を設定したうえで、ぜひ4大化してほしい。大学院もすぐにつくった方がよい。秋田の中で徹底的に美術の高等教育を行って、世に人材を送り出していくべきである。

4年制大学化には賛成である。ただし、コストの問題はあると認識している。他大学との連携も含め工夫することを検討すべきである。併せて、経済界の立場からは、産学連携についても検討してほしいと考えている。

厳しい財政状況、新庁舎のプランニング、行財政改革の推進といった状況がある中での4大化になるので、市民に十分納得してもらえるような形で進めほしい。また、全国から学生を集めるのであればより一層のオリジナリティが必要になってくる。それを金をかけずに実現するのは難しい。いずれにしても、拙速ではなく熟慮を重ねながら検討してほしい。

【公立大学法人化関係】

4年生大学化と公立大学法人化への作業を同時に進めることのメリットは多々有る。法人化とは大学が自主自律の精神で主体的に運営を図り、新たな取り組みを構築して、目標・計画に落とし込むこと、市民に対して透明で客観性を重視した合理的な組織運営を行いトップダウンの敏速な意思決定を実現することであり、何より構成員の意識改革に繋がる。

公立大学法人化については、運営費の面で苦労はしているものの、よさもある。国立・公立ということで設置者に縛られていることから解き放ち、自ら発信することができる。それによって個性を伸ばすことができれば、優秀な学生も集まることにつながるので、法人化は容認すべきである。

国立大学の場合、かつては国の制約が大きすぎたが、法人化した今は、特に予算面などで自由にできるようになった。4大化するのであれば、自由度が高まり、どのような大学を作るのかという計画を立てやすくなる法人化は同時に行うべきである。

法人化は新しいことを始めるチャンス。個性あふれる大学にするという面においてフリーハンドを持てるので、特に個性が求められる美術系となれば法人化は必須ではないか。

【議論のまとめ】

本日の議論を整理すると、まず4大化に関しては、委員総じて賛成と解釈した。大学院も必要との意見もあった。

教育内容の方向性としては、グローバル化を重視すべきとの意見があった。ローカリズムと対立的になるのか、調和できるものなのかは、議論が必要だと考えている。

コスト面に関しては、金をかけないとよい大学ができないのは確かである一方、必要以上に金をかけるのは市民の理解が得られないという面もある。適切なコストを検討し、市民に納得してもらう説明をすることが必要である。

芸術・文化をいかしたまちづくりについては、美術中心にという考え方もよいし、例えば秋田大学の協力を得ながら音楽にも力を入れるというのものもある。色々なやり方がある。

さらに、市内大学間の連携や産学連携について十分配慮してほしいという意見もあった。